令和4年度 第2回岐阜市男女共同参画推進審議会 議事録

日 時	令和4年10月14日(金) 午前10時00分～11時30分
場 所	岐阜市役所 12階 研修室1
次 第	1. 開会 (1)あいさつ 2. 議題 (1)第3次岐阜市男女共同参画基本計画の改定について 資料1～資料4 (2)その他
参 加 者	【審議会委員】 赤枝大輔委員、安達芳雄委員、大野正博委員、小川眞治委員、清水達郎委員、高橋和江委員、立石直子委員、中川久枝委員、中島由紀子委員、服部信夫委員、平田亨委員、藤井しのぶ委員、山村千華委員、渡邊悠司委員
資 料	資料1 第3次岐阜市男女共同参画基本計画改定 主な変更点と新設箇所 資料2 第3次岐阜市男女共同参画基本計画改定 評価指標 資料3 第3次岐阜市男女共同参画基本計画改定 改定案 資料4 第3次岐阜市男女共同参画基本計画改定 改定案(概要版) 参考資料1 第3次岐阜市男女共同参画基本計画 指標 参考資料2 岐阜市男女共同参画推進審議会委員名簿

【会議内容】

1. あいさつ

2. 議題

(1) 第3次岐阜市男女共同参画基本計画の改定について

事務局 資料1、資料2（事務局説明）

委員 資料1の「男女に対するあらゆる暴力の根絶と環境づくり」について、「女性に対するあらゆる暴力の根絶と環境づくり」から「男女に対する」という形で変更されるという提案ですが、二つの意味で議論・検討したいです。一つは、「男女に対する」という言葉にしてしまうと、これが男女共同参画の問題であるということというのがぼけてしまう。そして、その下の部分で「性的マイノリティへの理解促進」が入っている中でわざわざ男女と入れる必要がわからないです。

ちなみに男性へのDV性被害も無視できない問題の中、国の第5次計画では非常に時間をかけた丁寧な議論の中で、女性に対するあらゆる暴力の根絶ということで「女性に対する」を取りませんでしたし、また性的少数者へということで性別を二分立で捉える視点を見直そうという契機もあります。国に従うという形もありますし、県のように「男女共同参画社会の実現を阻害するような暴力」とするような表記もありますので、少し検討いただければと思いました。

会長 私も性的マイノリティの部分がありますので、表記はどのような形がいいのかなとは思っていました。委員の方からご意見およびこういう案はどうかというものも出され

ましたが、事務局の方は何かご回答があれば。

事務局 事務局としましては国の第5次の方も加味させていただいていたのですけれども、男女共同参画ということを前面に押し出したいということで、あえて男女という表記にさせていただきました。国が色々な検討を重ねて女性だけと表記させていただいているということも十分承知はしているのですが、男性はそのままいいのかという問題点もあると思いますので、もしよければ先ほどおっしゃった様に男性女性という表記ではない表現の仕方もいいと感じましたので、皆様でご検討いただければと思います。

委員 先日土曜日と日曜日に徳島で全国フェミニスト議員連盟の研修会がありました。地元の方含めて200の方が参加されて、分科会が3つあって私はDVのところに参加しました。地元で本当に精力的に救済のために頑張っているNP0の方が説明をされていて、その中で「てめえ」とか「殺してやるぞ」とか夫の声が生々しい、子どもが見かねて自分でこっそり録った録音でした。それから私たちがわかるようにということで、暴力を受けた女性の、痣がいっぱいあって首のところを切られたものを見ました。DVに関して本当の現実を見たときに決して男女平等がまだ前面に出される比率ではないと思います。DVに関しては男性の加害者が多いのですが、その加害者の更生プログラム、そういうことをしないようにするプログラムに一生懸命頑張っている方もいらっしゃいましたが、現実一人も心を変えませんとおっしゃっていました。何年かかっても男の人一人でさえDVがだめだということがわかってもらえないという現実がやっぱりあります。もっと女性の人権というか、DVも含めて命にかかわることがあり、とてもその男女という同じ比率で男性が被害を受けているかという点と違うと思います。録音の声を聞いていまして、女を人と思っていない、人権がないという感じで足蹴りもするし、そういう現実があるので。そういう加害者を作らないようにというプログラムさえも全然効果がないという中で、もっとその被害を受けている女性のことを真剣に取り上げないと、これは女性の自殺も含めて暗闇の中で処理されてしまっていることが多くあると思いますので、私も委員の提案に賛成です。決して簡単に男女にしないしてほしいと思います。

会長 現状を踏まえて、やはり男性加害者が圧倒的に多いのでというようなことで、国同様女性という表記もあるのではないかとのご意見だったと思います。

委員 素案を拝見させていただいたのですが、総合的に非常にいい言葉で著れているのですけれども、これを実現するにあたっての具体的施策といった部分については力強さが一つも感じられませんでした。あくまでも基本計画ですので、これを事業として落とし込むときに、どういう工夫がなされるのかといったところが非常にポイントにはなると思います。しかし、いろいろな講習等を開いても実際に聞いてほしい方々がそこに行くのかという話になってくると、あなたは聞かなくてもいいという方ばかりが聴衆で集まっていく。公民館を中心として講座を開催しても、あなた方は良識ある人ですから全然聞かなくてもいいです、本当に聞いてほしい人たちはあなたの周りにもいるかもしれない、そしてそういった方々を連れてほしいということが、かなり頻繁に見受けられる状況であります。そういった中で講座を開催し、参加人員は非常に多くて事業として非常に立派に進んでいるように見える部分はあるのです。ですが本当に届けなければならない方に対して、そのサービスが届いていないという現実をどう変え

ていくのかといった部分が、この具体的施策で見受けられないと社会の変革自体が絶対に行われぬ。行政という立場から申し上げますと、岐阜市というのは岐阜県の中において、財政的な規模を考えても、ものすごく大きな事業を扱っている企業として行政自体が取り上げられる。いわゆる公共事業をやっているという部分において、発注する側として、どういう企業経営をしている企業に発注したいのかという部分での経営審査の部分において、この男女共同であったり、ワーク・ライフ・バランスをいかにして変革をしているのかといった部分についてのポイントを非常に重点的に行うとしていけば、企業自身は、我々の企業体自体がこういうような変革をしていかなないと今後公共事業の担い手としてなっていくことができないというようなことをやっていきますと、企業経営者自身が考え方を考えざるを得ないという話になってくるのです。そうなってくると企業理念が変わっていき、そういった企業理念に沿う従業員じゃないと社会は成り立っていないという部分があるのですが、なかなかそういう大鉈を振るうというような決定を行政の方もなされない部分があります。社会全体を変えるのであればどうしたらいいのかという部分の、手段を振るうだけの権限を持っていらっしゃる部署がなかなかそこまでいかないという部分もありますので、その辺のところを根本的に変えていくためにはどういう風な施策が必要なのかといった部分が、もう一押し二押し行政ができることといったところが色々あるのではないかと。市役所自身の働き方を改革するより、市役所が持っている権限においてどう社会を変革していくのかということはこの施策の中に盛り込んでいくということがアピールできれば、もっと色々なところに波及して推進していくのではないかと思います。

会長 このいわゆる各論の部分というのは個別で考えていかなければならないかと思います。また総論部分では基本計画等、今すべてを盛り込むというのはなかなか難しいかと思っておりますので、特に強調あるいは表記・項目を増やしたらいいのではないかとのご意見がありましたらお伺いしたいと思います。いかがですか。

委員 かなり困難だとは思いますが、行政施策の中における、自分たちの権限において何ができるのか、市役所として何ができるのかといった部分をもう少し充実させてもらいたい。市役所の職員がどうなるというのではなくて、市役所が企業であったりとか、そういったものにどういう働きかけをすることにより社会が変革できるのかという部分について充実させていただけるとありがたいと思います。

会長 では今のご意見を踏まえまして、市としましても各部局において検討いただければと思います。

委員 ひとつ前の議論に戻るのですが、今はジェンダーとか性別の役割、性というものも二分されないというふうに言われてきています。性的少数者への理解ということで入れていただいておりますが、内閣府におきましても色々とそのようなグラデーションのような性ということはしっかりと行って広げるというような意図を示した上で、男女の格差であったり、男女の差別という部分はデータで集めていこうという時流があります。ここをしっかりと私たちは押さえないといけないと思っています。よく女ばかりではないか、男のこともやってくれと言われます。確かに男性も生きづらいです。だからそれも考えていかなければいけない。だけど安易に男女という言葉を使ったらそれでいいのではないかとこの言説は、私たちはしっかりと考えなければいけな

いので、私も同じように女性という言葉も再度ご検討いただいでの決定に委ねたいと思います。

会長 現状を踏まえてという部分も必要であるし、性的なマイノリティの部分も含めて考えないといけないということで、男女ということで表記することが必ずしも良いかどうか、もう少し詳細に検討する必要があるというご意見でよろしかったですか。

委員 いろいろ新しく世の中変わっているということを前提に改定を考えていただいて心強いのですが、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律というところがあります。政治分野というのは得てして行政が今まで避けてきた部分で、教育の分野でも政治は日本の場合、オブラートにかけられています。特に北欧などに行きますと高校の授業に政治団体の方が入れ代わり立ち代わり来て話をしたり、家庭ではうちに帰って子どもと色々な話ができるという環境がある中で、日本は18歳という年齢に代わってもほとんど情報が若い人に届けられないというところがあります。やっぱり行政の責任が多くあると思います。法律だけを載せていらっしやるのですが、今後はその行動範囲を広げていく提案とかご説明をまた次の審議会でも伺いたいと思います。

会長 政治参加という前提で家庭であるとか教育現場でもっとしっかり主権者教育を行う必要があると。おそらく主権者教育が明確になされないと、政治に参加しなさいという言葉だけ言われても難しいという気がします。その前提として、家庭において教育を期待する場合、親世代にまず教育もしないと、なかなか難しいのかなという気がします。

委員 私は前回も発言させていただきましたが、国や世界をあげて、ジェンダーの問題は今大事な課題になっていてSDGsにも入っているのですが、地域に戻ると何も変わっていない。そこら辺を変えていかないと今の政治分野のことも、政治は男性とかという固定観念の方が多い中で地域がどう変わるのかというところがすごく大事だと思います。

公民館の講座のジェンダーの講演講座はどれぐらいあるのかを調べていただいたらほとんどなかったもので、意見を言わしていただきましたら、今年度に入ったらそういうテーマを入れるようにという1行小さい字で入っておりました。これも先ほどの委員の発言ではないのですが、どのようにそれを進めるかといった説明とかそういうことがよくわからないので。

昨日も公民館で親子の講座があって防災について考えようということで参加したのですが、そこにいらした私よりも年代が上の方が、3歳までは子どもは家で育てなくてはとおっしゃっていました。でもここへいらっしやる若いお母さん方がおらず、かろうじてお子さんを連れてきてくださったのはお一人だけでした。「働くのもいいけど、3歳までは」という話がそこへ集中してしまって、皆さんのお話を聞いていましたが、地域を変えていくのは大事なことです、進みません。だから行政が働きかけて講座を作るなら、作りなさいや作ってほしいという依頼だけじゃなくて、その講座にはこんな方もいらっしやいますというような紹介できるようなシステムにするとか、PTAなどで、3人でも4人でも会長になっている女性が体験してらっしゃる話、地元では皆さん話しづらいですから違う地域で、それぞれが苦労している話、もっとPTAの会長を女性が出てもいいという話をしていただいて、今まで経験している人が講師になれ

と思います。ただ講座を使って、男女共同参画をやってくださいというのではなくて、やりやすいような資料や紹介を提供する、そういうシステムをぜひ作っていただきたいと思います。

会長 基本計画を示せばそれでおしまいということではなくて、生活に反映されてこないという意味がないと思いますので、今のご意見は非常に重要だったかと思います。

委員 一つずつ皆さんのお話を聞いているとなるほどと思います。
私自身も地域で一人の主婦として、活動・生活しているのですけれども、その中でもやっぱり今の地域が昔と変わっていない、例えば男女格差も私の若い時代の部下と昨日ちょっと夜にいろいろオンラインで話し合ったのですけれども、やっぱり遅々として進まないという現状があったりします。

委員 労働分野でも色々課題がありますが、今回の改定案を見せていただきまして、男性の育児休業取得と育児参加という部分を丁寧に抽出していただいている、大変心強いと思いました。実際にこの計画の中で、具体的に施策を進めていただく中で、市民の方の育児休業取得促進と併せて、市役所の皆さんも取得促進につきましても積極的に取り組んでいただければと思っております。

委員 教育の現場を見ておきますと、若い世代、お父さんお母さん関係なしに、例えば授業参観であったり個別懇談であったりにもずいぶんお父さん方がいらっしゃるようになっていきます。それで、行事参加を働きかけるときにできるだけ多くの方に来ていただきたいと思い、コロナ禍ですから、タイミングをずらして多くの人に来てもらえるような工夫も学校はしています。

一方、子どもたちというのは、男子だから女子だからという感覚というのは非常に薄いです。意識的にその男女という感覚はないように感じています。例えば児童会や応援リーダーで女子がどんどん積極的に関わってくれています。そういう姿を見てみると、いつぐらいから変わっていくのだろうか、中学校になると異性を意識し始めたりして変わっていくのかなと実感いたします。

ただよく思うのは、先生方の意識。男女平等だよねって、男子も女子も分け隔てなくと言っておきながら、つい「さすが男子は」と言ってしまう自分がいたり、「やっぱり女子はいいわね」なんてぼろっと言ってしまう。というのは、先生方の中に刷り込まれたというものが当たり前にある、そういう意識を感じています。

子どもたちに校長から話をする機会があった時に、テーマとして男子と女子の違いに関して、おかしいと思うことってありますかという問いかけをしました。簡単に言いますとランドセルの色、それから帽子です。それで、男の子に女の子がよくかぶるハット型の帽子をかぶせたものを、それから女の子が青いランドセルを背負っているような絵を見せたときに、「何かおかしいことある」と聞いたときに、何がおかしいのかわからない子が非常に多いです。だけど中には男の子なのにどうして女の子がかぶる帽子なのかという子もいたりしますが、そうすると子どもたちが勝手につながっていくのです。なんで、いいじゃないか別にと。そんなのおかしくないじゃないかと、子どもたち同士で言い合えるという関係があります。そうしたことを教員が学ぶべきだと改めて思いながら、そういう子どもたちの生の姿を題材にしながら教員の研修をしていくというのが効果的かと改めて感じているところです。

会長 私も昨日とある県立の高校で、環境学習の関係で伺って、制服を見て驚きました。女子生徒はスカート・パンツの選択ができるようなのですが、男子生徒はスカートを選擇する人がいないのか訊いたら、いない。それで女子生徒はリボンだけで、ネクタイという選択は考えないのかと言ったら、えっという話が出ていましたけれども、やっぱりその辺りも組み合わせの一部でしか選択ができないという認識があるのだということ、先生方はあまりそういったこと自体に関心がないのだと実感をいたしました。そういった細かなことも含めて、こういう基本計画などに盛り込んでいくというのは非常に重要なのだと思いますし、それに基づいて先生方も意識を変えながら教育や何かしていくということがあるのかと感じております。

委員 特に仕事と子育て、介護との両立のための情報の提供とか企業への働きかけというのが盛り込んでいただけていますが、今、お話を聞いていても、いわゆる50歳以上の大人がなかなか男女共同になっていないというところがあります。娘が結婚しまして、その夫婦関係を見ますと、家事分担が夫の方が多いのです。そこで悲鳴を夫の方があげてきて、お義母さん食洗器を買いだと言いついて、聞いてみて割合を書き出してみたら、彼の方が多くて娘の方が少ない。なかなかちゃっかり者だと思いついてみましたが、そういつてもお互いやれることはやるということで、今の20代の子どもたちにとっては教育が違いつてきていたので、それこそ男女というのにあまり違いがない。積極的にやれることはやるという世代が社会に出てきていくというのが現実かと思いつています。なので企業への働きかけ、いわゆるトップの方々に意識改革をしていただかないと、「育休を取りたくても取れない」とか、「なんでお前が取らないといけない」とか、「授業参加に出たいです」に、「なんでお前が休まないといけないのか」とか、やっぱりそこが一言違いつだけでも企業も育つていけないかと思うので、すごく盛り込んでいただけたことは本当にありがたいと思いつています。そして、本当に落としたところをどうやっていくかがすごく重要なので、男性の育児への参画や介護への参画を出来上がってしまった30代40代に言つてもなかなか入つてこないで、一緒にやっていくことや先を見越して情報を取つていくことは大事だと思いつるので、誰に講座をやるか、誰が講師をやるか、どういつた人に働きかけるかということが一番大事かと思いつながら、計画を見させていただきました。子育ての分野で私どもは広場をさせていただけているのですが、育休のお父さんが赤ちゃんを連れてくる率も本当に増えてきています。保育士の先生たちに褒めてもらつて喜んで帰つていかれたり、子育て中のお母さんたちとお父さんが交流して情報を貰つて帰つていかれたり。本当にそれが今自然な姿になってきているので、私たち50代以上の人間がそれを、当たり前にもられるようにしないといけないのではないかという風にこの計画を見ながら思いつました。

会長 私は家事が好きなのでとられたくないとの気持ちが強いので、家事の割合は私の方が圧倒的に多いです。だから、これは男性とか女性とか性別云々ではなくてやりたい人がやるというもの一つだと思いつますし、お互いにやりたくないという家庭の場合には、上手に割り振つていくことが必要なかとも思いつます。今、出ましたように政治とか行政という部分が、企業等社会に対して、やはりもっと積極的に働きかけをしていく必要があるであろうと思いつます。法律や計画も、立てて

おしまいではなく、冒頭で委員からの意見があったようにまさに各論部分をどうやって落としていくか、運用していくかということが重要だと思いますし、それができるような形でこの基本計画に様々な言葉を盛り込んでいくのも重要なのではないかと感じております。

委員

今、学校教育の現場で男女の、男の子・女の子という意識よりは色んなことで変わってきているというお話があったのですが、一つ思っているのは様々な研究の中でジェンダー意識が強くなるのは、むしろ、私専門ではないのですが、幼児教育というか未就学児童の子どもさんに対する保育園とか幼稚園とかでされるジェンダーでありそこでジェンダー意識をすごく強く作っているというのがすごく多いのです。そういう調査研究が多くて、むしろ小学校からというと、小学校の先生は今もう女性割合が高くなっておりまして、校長先生にしても女性割合が高いです。それを考えると幼稚園、保育園の先生方の割合は極端に女性が多いです。もちろん女性が多いから、女性らしくとか男性らしくという指導をするわけではないのですが、どうしても女性という集団の中で育った環境の方が保育を行うという感じがあり、ちょうどこの施策の方向の学校・幼稚園・保育園というのも入っておりますので、是非そういった就学前の子どもさんに対する教育の現場というところの方々に何か意識を啓発できるような機会のようなものが意識されたりいざと、また小学校でもそうやって今お聞きさせていただいたことにつながっていくのではないかと感じました。

あと表記の問題なのですが、「男性の介護への参画促進」というのを新しく入れられたというのがあるのですが、「介護への男性の参画促進」の方が良いのかなと思います。というのは男性の介護というと、その介護される側が男性というイメージを持つ気がしていて、よく高齢者の介護という表現にします。ですので、ただ男性の男性のと出すこともどうかと思う面もあるのですが、そういうことも踏まえて、「介護への男性の参加促進」の方が、多分意思に沿った表記かなと思いました。子育てのほうは男性の子育てとはあまり言わないので、ひっくり返す必要があるかどうかちょっとわかりませんが、介護の方はそれでいいのではないかと感じましたので、ご検討ください。

会長

表記の部分に関してはできる限り誤解がないように、また適切に伝わるようにということで、今のご意見非常に重要であったかと感じております。

私も専門ではないので、保育士の養成がどのような形で成されているのかということにはわからないのですが、確かに委員が言われるように圧倒的に保育士は女性の方が多いので、もしかすると現場で無意識的に出ているのかもしれないかもしれません。おそらく小中高の教諭も一緒でしょうが、養成現場で変えていかないと根本的な解決につながりませんので、現場で変えるということももちろん重要ですが、養成機関ももうちょっと考えていく必要があるのかと思います。

男女を区別するということはどこまで行っても必要な部分はあるのだと思いますけれども、差別はいけないという人権教育をやっていないと、誤解を招いてしまうことがあります。

この点につき、人権の立場から何か今回の基本計画に関して盛り込んだ方がいいとか、ご意見があればと思いますが。

委員

女性のDVについて相談しなかったという回答に、相談しても無駄だと思ったとか、自分さえ我慢すればという人が50%近くある。そういった反面、岐阜市女性センターを知っていますかというところでは、知っている内容については30%もない。この基本計画という立派なものがありますけれども、それが市民の中に根付いていないというのが大きな原因ではないかと思うのですが、そういったときにどういう啓発活動をしていくのか。

先ほど男女の境がなくなってくるのが幼稚園児、幼児教育からではないかといわれましたが、実は私たち岐阜市の人権擁護委員の方では、幼稚園・こども園へ人権教育というような講座をしているわけですがけれども、その狙いの一つは、保護者の方は幼稚園からもらってきたチラシというのは必ず見られるのです。ですから、こども園などを通じて、人権に対するチラシを配るようになっております。そういう啓発活動の中で浸透させていく方法が必要ではないか。先ほどの男女の人権か、女性の人権かというのがありましたけれども、この幼稚園保育園児の親御さんのところに、もう初めから女性のというふうで持って行ってしまうと、かえって受け入れづらいのではないかと思います。男女というように人間全体の、全員にというようなイメージでいくと受け入れていけるのではないかと思います。ですからこの表記には女性のという形で構わないとは思いますが、啓発資料に関しては、やはり男女ということを入れておいた方がよいのではないかと思います。

委員

基本目標の「家庭・地域社会における男女共同参画」というところで、ここに記載されている内容を実施することによって地域活動の男女共同参画が進むのかといった話になった時に、根本的な問題といった部分がどうも現状把握であったり課題といったところに、オブラートに包まれていて書かれていないというような気がしてなりません。市民と行政の協働という部分の中における行政の判断としては、市民という部分には出てくるかとは思いますが、その市民というものの非常に大きな割合として自治会という組織があるというのが現状だと思います。あらゆる施策の部分におきまして各部長さんなどが、こういうことお願いしますといった形で連絡協議会にお願いすると言ったところに、市民への説明イコール自治会というようなスタンスで考えておられる節があるのではないかとこのところが多々見受けられるところがある。私自身も自治会長をやらせていただいて、連合会の運営にも携わらせていただいている人物として、そういったことが日頃見られるという部分があるのですけれど、そういったときにその自治会といった組織自体が男性優位な組織という状況になっているという中において、地域社会が変わっていかないとその市民の社会自体もなかなか変わっていかないだろうという部分が根本的にあるのですが、その部分が一切触れられていない。これにつきましてはいわゆる自治会という組織の話であるから、行政としてはそれに触れていないというのであればそうなのかもしれませんが、岐阜市全体の男女共同参画で考えるのであれば、この自治会がどうあるべきなのかという部分をここでの課題として挙げたうえで、いわゆる新しい価値観を持っている20代30代という若者が自分たちの地域のために汗をかこうかという状況を、どういう風にして創出すべきかを変えていくことを考えていかなければいけない。要はその方々が50代60代になるまで社会は変わらないという話にせず、あくまでも積極的に働きかけをするのであれば、もっと早く、世代交代が終わる前までに価値観の共有をし、そうした上で男女共同参画ということができるようにするためにはどのような手立てが必要なの

のかということを考えないといけない。ここの部分でぱっと見ると、グラフの中で男女の部分の発言がしやすいのか・しにくいのかという雰囲気は違いますといった課題はここに書いてありますけれども、それらに対する解決策といった部分で出てくる施策はこれなのかというようなところがあります。そういうようなことを考えたときに、行政でやれる範囲といった部分についてはかなり限界があろうかとは思いますが、どうあるべきなのかといった部分に、あるべき姿を目指した上でどういう働きかけをするべきなのかといった部分については考えていかざるを得ないのかと思います。そうしないとうちの自治会・連合会もそうですけれども、いわゆる若い方々にとっては魅力がないからという話になって自治会組織率自体どんどん下がっていきます。魅力ある自治活動をするためにも、どうしていくべきなのかという部分を考えていかないと、地域活動における男女がどうのというより地域活動自体が崩壊しかねない。そこが抜けてしまう状況になってしまうと、これは行政にとっても非常にマイナスになってくるかと思えます。そういうことも含めたうえで、地域活動の男女共同といった部分をどう考えるべきなのかといった部分は、実はかなり根深い考えがありますので、ここをどうあるべきなのかといったところはもう少し真剣にこの現状の課題といった部分で、分析をするべきではないかと思えます。

会長 今課題を出されましたので、ここの部分を各論の問題としてしっかりと考えていく必要があろうかと思えます。また、基本計画に対し、これが適切に市民に伝わるように啓発というようなこともしっかりと検討していく必要があろうかと思っております。行政側からのアプローチも本当に重要かと思えますけれども、逆に市民からもアプローチしていただくということも重要だと思えますので、どういう形であれば市民が声をあげられるのかということ自体も検討し、両者からの意見が交わせる形でより良い運用がなされていくといいなという風に思っております。

委員 皆様のご意見を伺っていて、アンコンシャス・バイアスという言葉は新たに取り入れつつ、作っていただいたことはとても私は良いことと思うのです。今、企業さんの中でもアンコンシャス・バイアスの研修をなさるところがとても増えてきました。性別役割とか男女共同参画というのは人権なのですが、これを説明するのにどれだけの時間と負荷があるのかと思ったときに、言葉があるというのは大事で、先ほど私は男女という言葉申しましたが、アンコンシャス・バイアスという言葉は横文字ではありませんけれども、本当に市民が聞いてもわかりやすい言葉ですし、ジャンルを問わない言葉なので、これを書き込んでいただいたということは、これから各論・施策を考えていく上でも、この言葉を出して皆様の啓発を図っていくということにも非常に有効に使えるのではないかと思えます。

会長 私自身もアンコンシャス・バイアスがないかということと必ずあるはずですので、しっかりと普段の生活の中で意識していくということが重要でだと思います。なお、新しい言葉あるいは用語の説明を盛り込んでいくというのは大切なことではないかと感じております。本日いただきましたご意見に関しましては、少しでも計画に反映できるように調整したいと思っております。ただ、すべてのご意見につき、結論が確定しているわけではありませんので、字句の表現も含め、事務局と会長である私の方にご一任いただくという形でよろしいでしょうか。

一同 お願いします。

会長 それでは、次の議題に入ります。

(2) その他

事務局 (次回の日程について)

会長 では、本日予定されておりました議事についてはすべて終了いたしました。

【閉会】